

刊夕 日三十月十

常磐每日新聞

定価 一部全一ヶ月五拾五圓 五部全一ヶ月二拾五圓
 廣告料 五圓以上 一週一圓 一月三圓 三月八圓 半年一拾五圓 一年二拾五圓
 日曜 祭日の翌日 休刊
 發行所 常磐毎日新聞社 東京 本町一丁目
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日新聞社 東京 本町一丁目
 電話 六三〇

伊藤公三

ビスマルク

官僚政治と政黨政治
堀切 善兵衛

(二)

伊藤公三は、維新の始め英國に行つてゐたことがあり又憲法調査のため歐米に行つて各國の立法その他を詳細に調査し、その間ビスマルクの仕事を覚えて之れを私淑し、自分は東洋のビスマルクたらんと欲したことと想像される。俗間にも今だに伊藤公三は東洋のビスマルクを以て任じて居たといふことが言ひ傳へられてゐるところで私は、天皇陛下及び國家の爲めに圖つたこと

ノート

鑑純粉に約二割の重曹を混ぜると立派な髪洗粉となり又時計の鎖などを磨くにもよい

とに於て伊藤公の方がビスマルクよりも遙かに忠であり、且つ先見の明があつたことを感ぜざるを得ない。それは何ういふ點であつたかといへば、是れこそ伊藤公とビスマルクの違つてゐる大きな點であつて、ビスマルクは官僚超然内閣を理

想とし政黨に對しては寧ろ之れを嫌忌し、その發達を出来るだけ抑制せんと努めたるに反し、伊藤公は自ら政黨の創立者となつて政黨を發達せしめ、その力によつて國政を運用することが陛下の爲めであり、國家永遠の爲めであることを痛切に感じられ、萬難を排して自ら其の局に當られたの

明日の献立

- 【朝】 コ、ア トースト バタリン
- 【晝】 油煮牛肉 こんにやく
- 【晚】 茶めし すまし汁 油揚 人參

である。このことは、一寸考へると別に大した問題でない様に考へられるが世界の歴史のその後の進展に徴して見ると、非常に大なる結果となつて現はれてゐる。即ちビスマルクの築き上げた獨逸帝國の今日と、伊藤公が渾身の努力をさへげた日本の今日とを比較すれば、思ひ半に過ぐるものがあらう

暮秋

晴れた日のくれがたに 廣い野に來てねころべば

武田 高天

見ゆる涯まで なにかなしに心吸はる 見あぐれば青磁色の秋 かがり知らぬ深い底より 光はわがひとみに流れ入る

秋

庭の小池に小雨ふる 庭のおちばに小雨ふる 小雨ふる秋は淋しも 夕暮の小路 青桐 朗韻

静かな夕暮の小路を私は 静かに歩む 草の香がしんみりと香ふ 木々の葉すれがさや／＼とさ／＼やき交はす 爽な夕風に頬をなでさせて私はしのびやかに永遠の幸を考へながら、静かにいとも静かに歩む ひねもすの醜いた／＼かひに汚れきつた頭はあとかたもなく淨化せられる 静かな夕暮れの小路を歩くと平和な幸福がこつそり寄つて來る 悲しみも苦しみも忘れ果て明日の希望に朝に生き様と考へながら静かにいとも静かに夕暮の小路を歩む

秋と冬の 中折ボーン

優良國産品

特選 ウール帽 ¥2.00
 フワー帽 ¥5.50
 セラフイック帽 ¥6.00

スマートな型と色……
 御年配若人向……
 好適品豊富に取揃へ

ツルヤ

電一四〇

藤沼醫院

内科 小兒科 花柳病科

平町紺屋町 電話五〇七番

おなじみの……

カキ料理 エビ料理

松茸料理 なべ類 其他色々 相始めました、何卒御試食下さい

平二警察署裏通り 魚清食堂

電話六六三三

◆出前やさん至急入用

豫て御高評を蒙り居り候 江の島料理本店自慢の水たき相始候間一層の御評判被下度候

尚ほ季節料理として 松茸料理も種々仕可候へば宜敷御賞味の程御願ひ申上候

旅館 住吉屋本店 電話一五九番

此度槍舞臺を宴會場に設けました何卒御利用下さ

自轉車 紀念發賣號マーツ特許

景品付 月賦販賣

販賣方法 八ヶ月分拂但し四回御拂込にれば現品御渡し致します(日掛歡迎)

縮切 賣切れと同時に(各車一百臺)

景品抽籤 最終掛金領收後直に常磐毎日新聞社々員立會の上舉行す

景品 一等より五等迄空籤なし

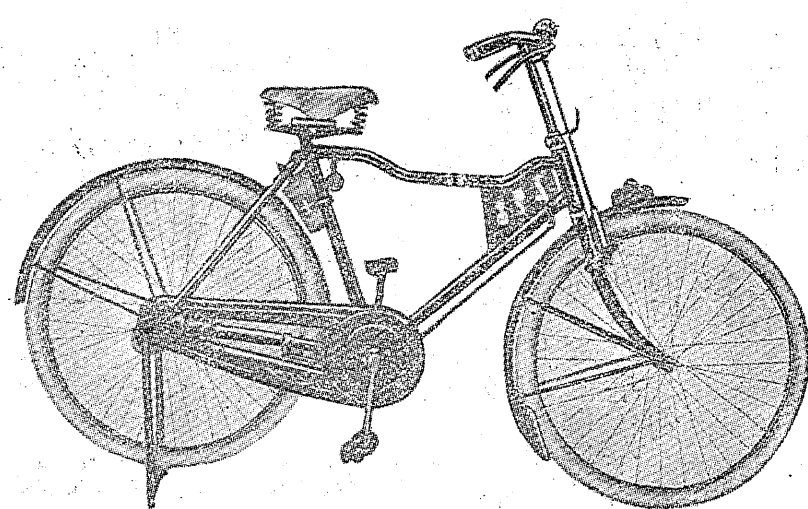
上等三重總桐タンス 上等茶籠筒 座蒲團五枚一組 南部鐵瓶 三越製御盆 等々

發賣元東京合名 鹽野製作所

代理取扱店平町 エビスヤ自轉車店 電話六六四番

△葉書又は電話にて御通知下されば直に御伺ひ致します尙不明の點は代理店へ御紹介下さい

◎國産高級車 三 菱 號 金五拾貳圓也
 ◎經濟高級車 菊 菱 號 金五拾圓也
 ◎盜難豫防運搬 特許マーツ號 金五拾圓也
 ◎車代用頑固車 アーレンシー號 金四拾五圓也
 ◎高級實用車



[號 ツー マ]

全村に鳴り渡る

『更生の響き』

▽板木を打ち叩き

▽早寝早起の奨励

これも非常時農村風景の一つ—經濟更生村に指定された神谷村では目下實行の緒に着きつつあるが更生の實績は先づ『早寝早起の奨励と時間勵行から』との趣旨で各大字部落の中心地に封建の昔を思はせる『板木』を建設し毎朝夕二回ボンボンの音高く農民の胸に更生の響きを刻ませて只管奮起の一途を歩む方針であると

小麥增收入賞 第二
 回本縣小麥增收競技會入賞者の褒賞授與式は來る十八日福島市縣農會事務所で舉

平商校長上京 平商校長矢野泰次郎氏は來る十五、六の兩日文務省内に於て開かれる全國商業學校長會及び十八、九の兩日帝大安田講堂に開かれる實業學校協議會に各出席の爲め明日平發午前十時四十分上京する

拂下米其後も續々

郡下六千俵を突破か

既報平穀物検査所の濡米拂下申請は昨日正午迄に二千六百八十俵に達したが締切後間もなく三坂より二百俵飯野百俵、夏井、高久各五十俵の申請があつたので平支所管内は合計三千八十俵に達したが更に同所四倉出張所への申請は四倉四百八十俵、大野百六十俵、久之濱六百俵、計千二百四十俵を加へ四千三百廿俵とな

り勿來出張所への申請を加へると郡下の總申請は六千俵を突破するものと見られてゐる

戊申證書奉讀 平町各中等學校及び各小學校は戊申證書御下賜記念日のけふ奉讀式舉行した

圖書を出陳 平第一小學校は來る二十三日開催される郡山市制十周年記念

行されるが郡下の入賞者は左記の如く四等五名であつた

夏井下大越第二實行組合
 平高島亥之吉、江名及川
 富士太郎、好間鈴木源平
 錦荒井一二

豫定を變更して 復舊工事八萬圓

縣會を通過次第着工

平土木監督所ではさきに管内の九年度災害復舊工事の設計を了し大體十二萬圓程度の豫算を樹てたが去る七八兩日内務省島田技師一行が四十餘の災害箇所を具さに調査した結果に就き諒解運動のため小林監督所長は十日東京内務省土木局その他を訪問石城地方の現状を力説して是非原案通り採擇せられたき旨陳情して昨夜歸平したが

内務省の意嚮としては結局豫算十二萬圓を八萬圓に減額することに決定したので

平土木監督所でも止むをく設計の一部を變更して飯川沿岸島臺地内堤防改修工事

年)中島恒(五年)飯島登司(六年)鈴木將夫(高一)新妻常雄(高二)鷺仁一

好間村會開く

好間村會は今十三日午前十時から招集九年度追加更生豫算案その他を附議した

青年選手出發

郡聯合青年團選手一行二十餘名は既記の如く縣下体育大會に出場の爲め今十三日平發午前十一時十八分西山副團長外係員引卒の下に必勝を期し出發した

月中旬平第一小學校講堂に於て開催する豫定

陸上運動打合 来る

十七日陸上運動會を開催する警女は本日午後一時より各係員の打合せた

四倉蘭市場

昨十二日の取引は晩秋蠶も愈々品薄となり總量百五十二貫にて最高二十九圓、最低廿圓十錢、馴廿四圓三十錢前日の馴相場より一圓九十錢の安値となつた

警中對法曹團

警中職員對平法曹團の野球戦は本日午後二時半より警中球場で舉行された

健康醫に指定

平鎌田町白土徳彌を此程健康保險醫に指定された

武田辯護士事務所移轉

武田辯護士事務所移轉、過般來才榎小路二四小學校上り口に事務所新築中であつた辯護士武田清治郎氏は此程落成移轉した

婦人會と女青團

明治節を卜して總會

平婦人會總會は來る十一月三日の明治節當日午前十一時より同女子青年團總會は同日午後零時半より各第二小學校講堂に於て開かれ白石玄海氏の『一九三五年に於ける婦人の覺悟』と題する講演がある

警察部長來町

渡警察部長は松岡警務課長を隨行富岡署管内巡閱の途昨十一日夜平町住吉屋本店に泊りふ午前七時富岡に向け出發したが昨夜住吉屋本店で井上、野崎、萩原三縣議、黃山署長、青沼町長等が晩

平驛の賣子連が

切手や葉書販賣

平郵便局では今回平驛プラットホームに於ける切手、葉書類の販賣を許可する事になりホームの辨當賣子が販賣に當るから旅客は非常に助かる譯である

平町人事

回死 亡

△杉平五 運吉氏妻森フミさん(六五)

當選御禮

所得調査委員 (イロハ順)

- 加藤 丈夫
- 安島 久夫
- 鈴木 邦三郎
- 鈴木 喜太郎
- 同補充員
- 豐田 美孝
- 岡田 千藏
- 多田 井笑次郎
- 鈴木 林平

今般所得調査委員選舉に方り右の諸氏を當部會より推薦致候處何れも當選仕候これ偏へに各位の深甚なる御援助の賜と御厚情感謝の至りに不堪候乍略儀以紙上御厚禮迄如斯御座候 勿々敬具

昭和九年十月十三日

石城政友部會

會長 木村清治

外科

門專光X

上田外科醫院

平町南町
 電話一二九番

拾った雷管を

面白半分にあつく

轟然爆發して全身に重傷

内郷村大字宮宇宮澤岩炭町田坑運搬夫芳松二女高橋ハツエ(一)は昨十二日午後七時頃自宅附近でビス雷管を拾得自宅に持ち歸つて面白半分に燐寸の軸で突き廻したため轟然爆發し左手指を全部もぎとられた上全身に全治三週間の重傷を負つた

觀世流研誼會 平町

觀世流同好者よりなる研誼會素誼會は来る十七日午後六時半より五丁目吉田屋で開くが番組は橋辨慶、熊坂攝待、班女、阿漕等で番外として獨吟、仕舞、連吟等がある會費五十錢

曾我前校長

平町におさらば

郷里白河に新邸を建築 人々擧つて別離を惜しむ

平第一小學校の前校長曾我直治氏は永年勤続の教育界から足を洗つて後城山の自宅に悠々自適の閑日月を樂しんでゐたが折角の

偉材を惜んで未だ隠

世するには歳が早いと助役の候補者などにも白羽の矢を立てられたことがあり各方面より袖引手あまたあつたがそれらは一切耳を藉さず一竿の釣竿を眺んでさほめく浮世をせら笑つてゐたが最近では

故郷を思慕する念に

迫まられてか先般來出生の地白河に自邸を自身の手により設計で建築中のところ

久振りの

快晴に

郊外へ遠足

平第二小學校は本日久し振りで秋らしい快晴に接し左の如く全校児童の郊外遠足を試みた

(二年)大館権理様(二、三年)鎌田山(四年以上)好

八十才以上の

高令者招待

養老杖を贈る

平女子青年團の敬老會

平女子青年團の敬老會は来る十七日午前九時より第二小學校講堂に於て例年の如く八十才以上の高令者を招き開催するが當日は餘興として十五丁目岡野辰次郎さんの義太夫及び兒童の遊戯等を催す外記念として夫々養老杖を贈る由尙調査漏れがあるかも知れないから八十才以上の方は此際第二小學校宛申込まれたいと

青訓聯合演習 郡下

青年訓練所聯合演習は昨日の評議員會で来月下旬演習に於て試みる事になつたが詳細は近日主事會を開き決定する由

赤井校運動會 赤井

第二校は来る十五日各種團

明日のラジオ

十四日

- 後六、〇〇 (子供供の時間) 童話劇「星の國へいつたお爺さん」 H.K.子供會
- 後六、二五 英語講座(三の二) 岡田哲藏
- 後七、三〇 チェロ獨奏 エマヌエルフオイヤーマ

天候

今夜も明日も北西の風天氣好し

種女會發表

- 前九、三〇 唱歌「アノ盛岡市内小學校兒童ピアノ伴奏」 千葉茂
- 前一〇、〇〇 宗教講話「興法利生」 大谷尊由
- 前一〇、四〇 臨地講演「大和法隆寺より中繼」
- 後〇、五〇 滿洲より「發展途上の大奉天」 奉天商工會議所會頭 石田武亥
- ◎大阪女流演藝の午後◎
- 後一、二〇 清元「仁世契線綴糸」 清元延榮外大勢
- 後一、五〇 野球試合實況

「六大學リーグ戦」

- 後二、四〇 講演「名古屋偕行社講演會々場より中繼」 平沼騏一郎
- 後六、〇〇 (子供供の時間) 名作物語「黄金丸」(一)
- 後六、二五 産業ニュース
- 後七、二五 日曜特輯新作演藝漫談「ハイキング微笑集」 大辻司郎
- 後七、五五 舞臺劇 中村鴈治郎大一座
- 大阪歌舞伎座より中繼

子育神の祭り 草野

村鎮守愛宕花園神社の祭典は来る二十四日執行されるが子育での神として古來より知られてゐるだけに當日は可憐な參詣者に賑ふであらうと

傳馬船が轉覆

乗組員危く溺死の刹那

築港作業人が救助

小名濱町同港築港作業船成瀬丸乗組員丹野丹治、吉田力男、豊田清義、鈴木富次、丹野徳次、富岡久の六君は去月二十一日午後一時頃折柄の大暴風に港内外警戒中同港外八百米の海上で出漁中の同町古港谷田部三次郎

病弱の青年服毒

家庭に種々複雑な事情

平町杉平一五猪狩寛治氏長男堯春(三)君は去る十一日夜青酸加里を嚥下自殺を計つたが家人に発見されて果さず目下共濟病院に入院中

比佐代議士の從兄

ベルトに捲き込まる

製材工場見物中の奇禍

湯本町字三函雜貨商比佐作次郎(五)さんは十二日午後製材工場にバタ買ひに行き

工場内を見物中誤つて回轉するベルトに捲き込まれた足大腿部が滅茶々々となる瀕死の重傷を負ひ入山病院に入院加療中であるが生命危篤、なほ同人は比佐代議士の從兄に當ると

平職業紹介所報告

- 回入を求めめる方
- △印刷工 二十五才以下 尋卒 給料面談
- △探炭夫 三十才以下 學力不問 日給一圓
- △土主夫 三十五才以下 學力不問 日給六十五錢
- △小店員 十六才迄 高卒 仕着小遣
- △商店雜役 三十才以下 尋卒 給料面談
- △女中 十五才以上 尋卒 月五圓位
- 回職を求めめる方
- △商店雜役 三十八才 無學
- △料理人 二十一才 尋卒
- △豆腐賣子 廿八才 尋卒
- △小店員 十六才 尋四卒
- △商店員 三十四才 乙種商業卒
- △女中 十八才 高卒

